

(19) 日本国特許庁(JP)

(12) 公開特許公報(A)

(11) 特許出願公開番号

特開2014-100601

(P2014-100601A)

(43) 公開日 平成26年6月5日(2014. 6. 5)

(51) Int.Cl.

F 1

テーマコード (参考)

A 4 7 J 17/02 (2006.01)

A 4 7 J 17/02

B 2 6 D 3/24 (2006.01)

B 2 6 D 3/24

A

審査請求 未請求 請求項の数 7 O L (全 11 頁)

(21) 出願番号 特願2014-43900 (P2014-43900)

(22) 出願日 平成26年3月6日 (2014. 3. 6)

基礎とした実用新案登録

実用新案登録第3176196号

原出願日 平成24年3月30日 (2012. 3. 30)

(71) 出願人 505346148

アーネスト株式会社

新潟県三条市福島新田丁858

(74) 代理人 100101568

弁理士 山本 真一

(72) 発明者 鈴木 邦夫

新潟県三条市福島新田丁858 アーネスト株式会社内

(72) 発明者 渡辺 賢一

新潟県三条市福島新田丁858 アーネスト株式会社内

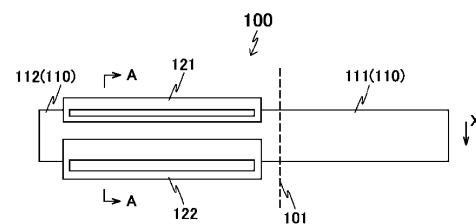
(54) 【発明の名称】 ピーラー

(57) 【要約】

【課題】 3個以上の刃を有する青果物等の皮をむくピーラーを提供する。

【解決手段】 ピーラー100は、本体110と、3個の刃121、122等とからなる。本体110は、把手として機能する第一領域111と、第一領域111と連続する第二領域112とを有しており、3個の刃121、122等は、第二領域112において、それらの長さ方向が第一領域111の長さ方向の軸線と平行になるように本体110に取り付けられている。

【選択図】 図1



【特許請求の範囲】

【請求項 1】

把手として機能する少なくとも一つの第一領域と、前記第一領域と連続する第二領域とを有する本体と、
前記第二領域において前記本体に取り付けられた少なくとも 3 個の刃と、
を備えるピーラー。

【請求項 2】

前記刃はその長さ方向が前記第一領域の長さ方向の軸線と平行になるように取り付けられていることを特徴とする請求項 1 に記載のピーラー。

【請求項 3】

前記刃はその長さ方向が前記第一領域の長さ方向の軸線と直交するように取り付けられていることを特徴とする請求項 1 に記載のピーラー。

【請求項 4】

前記第二領域はその中心から半径方向の外側に向かって突出する突出部分を備えており、前記刃は前記突出部分の先端に取り付けられていることを特徴とする請求項 1 乃至 3 の何れか一項に記載のピーラー。

【請求項 5】

前記第一領域は前記第二領域に対して取り外しが可能であることを特徴とする請求項 1 乃至 4 の何れか一項に記載のピーラー。

【請求項 6】

前記少なくとも 3 個の刃のうち少なくとも 1 個の刃は他の刃と種類が異なるものであることを特徴とする請求項 1 乃至 5 の何れか一項に記載のピーラー。

【請求項 7】

前記少なくとも 3 個の刃のうち少なくとも 1 個の刃は他の刃と、対象物の皮を剥くときの皮の厚さが異なるものであることを特徴とする請求項 1 乃至 6 の何れか一項に記載のピーラー。

【発明の詳細な説明】

【技術分野】

【0001】

本発明は、野菜又は果物その他の青果物の皮を剥くピーラー（皮剥き器）に関する。

【背景技術】

【0002】

ピーラーの一例として、特許文献 1 及び特許文献 2 に記載されたものがある。

【0003】

図 13 は、特許文献 1 に記載されたピーラー 1000 の斜視図である。

【0004】

ピーラー 1000 は、ハンドル 1010 と、ハンドル 1010 の先端に形成されている U 字型の支持部 1020 と、支持部 1020 に支持された刃 1030 と、からなる。

【0005】

図 14 は、特許文献 2 に記載されたピーラー 2000 の斜視図である。

【0006】

ピーラー 2000 は、ハンドル 2010 と、ハンドル 2010 の先端に取り付けられた刃 2020 と、からなる。

【0007】

図 15 は、刃 2020 の拡大斜視図である。

【0008】

刃 2020 は V 型の断面を有しており、長さ方向に延びる開口部 2021 が中心線に沿って形成されている。開口部 2021 の両縁に刃面 2022 が形成されている。

【0009】

10

20

30

40

50

図 16 は、特許文献 2 に記載されたピーラー 2000 の変形例に係るピーラー 3000 に使用される刃 3010 の斜視図であり、図 17 は図 16 の A-A 線における断面図である。

【0010】

ピーラー 3000 に使用される刃 3010 は、図 17 に示すように、「コ」の字型をなしており、二つの角部に開口 3011 が形成され、これらの開口 3011 に面して、それぞれ刃 3012 が形成されている。

【先行技術文献】

【特許文献】

【0011】

【特許文献 1】特開 2010-104400 号公報

【特許文献 2】特開平 11-267010 号公報

【発明の概要】

【発明が解決しようとする課題】

【0012】

図 13 に示すピーラー 1000 及び図 14 に示す 2000 は、何れも 1 個の刃 1030、2020 を有するものとして形成されている。

【0013】

このため、刃 1030、2020 の耐久期間が経過した場合には、ピーラー 1000、2000 を捨てて、新しいものに取り替えることが必要であった。

【0014】

また、ピーラー 1000、2000 は 1 個の刃 1030、2020 のみを有するものであるため、他の種類の刃を使用する必要がある場合には、その刃を有する他のピーラーを用意しなければならなかった。

【0015】

さらに、ピーラー 1000、2000 で剥くことができる皮の厚さは一定であるため、ピーラーで剥く皮の厚さを変えたい場合にも、ピーラー 1000、2000 とは別のピーラーを用意しなければならなかった。

【0016】

図 16 に示したピーラー 3000 は 2 個の刃 3012 を有しているが、2 個の刃 3012 は同一種類の刃（例えば、平刃）であるため、ピーラー 1000、2000 の場合と同様に、他の種類の刃を使用する必要がある場合には、その刃を有する他のピーラーを用意しなければならなかった。

【0017】

さらに、図 16 に示した刃 3010 においては、形成し得る刃 3012 の最大数は 2 であり、3 個以上の刃を形成することは構造的に不可能である。

【0018】

本発明はこのような従来のピーラーにおける問題点に鑑みてなされたものであり、3 個以上の刃を有するピーラーを提供することを目的とする。

【課題を解決するための手段】

【0019】

上記の目的を達成するため、本発明は、把手として機能する少なくとも一つの第一領域と、前記第一領域と連続する第二領域とを有する本体と、前記第二領域において前記本体に取り付けられた少なくとも 3 個の刃と、を備えるピーラーを提供する。

【0020】

本発明に係るピーラーにおいては、前記刃はその長さ方向が前記第一領域の長さ方向の軸線と平行になるように取り付けられていることが好ましい。

【0021】

本発明に係るピーラーにおいては、前記刃はその長さ方向が前記第一領域の長さ方向の軸線と直交するように取り付けられていることが好ましい。

10

20

30

40

50

【0022】

本発明に係るピーラーは、前記第二領域はその中心から半径方向の外側に向かって突出する突出部分を備えることができ、この場合、前記刃は前記突出部分の先端に取り付けられる。

【0023】

本発明に係るピーラーにおいては、前記第一領域は前記第二領域に対して取り外しが可能であることが好ましい。

【0024】

本発明に係るピーラーにおいては、前記少なくとも3個の刃のうち少なくとも1個の刃は他の刃と種類が異なるものであることが好ましい。

10

【0025】

本発明に係るピーラーにおいては、前記少なくとも3個の刃のうち少なくとも1個の刃は他の刃と、対象物の皮を剥くときの皮の厚さが異なるものであることが好ましい。

【発明の効果】

【0026】

本発明に係るピーラーによれば、3個以上の刃のうち所望の刃を使用することができる。このため、1個の刃しか有しない従来のピーラー1000、2000と比較して、3倍（もしくは3倍以上）の耐久期間を有することができ、仮に、3個以上の刃のうちの何れか1個の刃が破損した場合であっても、残りの刃を使用し続けることが可能である。

【0027】

また、突出部分を設けることにより、3個以上の各刃間の距離をより長くすることができるので、例えば、ある一つの刃で対象物の皮を剥くときに、他の刃を気にすることなく、皮を剥くことができる。

20

【0028】

把手としての第一領域を第二領域に対して取り外しが可能であるように構成することにより、ピーラーの使用者は所望の把手を選択することができ、種々の形状の把手を使用することが可能になる。

【0029】

また、3個以上の刃のうち少なくとも1個の刃を他の刃と種類が異なるものにすることにより、最大で3種類の異なる種類の刃を取り付けることができるため、皮の剥き方に応じた刃を選択することが可能になる。

30

【0030】

さらに、本発明に係るピーラーにおいては、3個以上の刃における各開口部のサイズを相互に異なるようにすることができるため、対象物の皮を剥くときの皮の厚さとして最大で3種類の皮の厚さを選択することが可能である。

【0031】

以下、本発明の様々な具体化を、添付図面を基に、その効果・利点と共に、詳述する。

【図面の簡単な説明】

【0032】

【図1】本発明の第一の実施の形態に係るピーラーの平面図である。

40

【図2】図1のA-A線における断面図である。

【図3】本発明の第一の実施の形態の変形例に係るピーラーの平面図である。

【図4】本発明の第二の実施の形態に係るピーラーの平面図である。

【図5】図4のB-B線における断面図である。

【図6】本発明の第三の実施の形態に係るピーラーの平面図である。

【図7】本発明の第三の実施の形態に係るピーラーにおける第一領域の第一の変形例を示す平面図である。

【図8】本発明の第三の実施の形態に係るピーラーにおける第一領域の第二の変形例を示す平面図である。

【図9】本発明の第三の実施の形態に係るピーラーにおける第一領域の第三の変形例を示

50

す平面図である。

【図 1 0】本発明の第三の実施の形態の変形例に係るピーラーの平面図である。

【図 1 1】本発明の第四の実施の形態に係るピーラーの斜視図である。

【図 1 2】図 1 1 の C 方向から見た場合の本発明の第四の実施の形態に係るピーラーの側面図である。

【図 1 3】第一の従来のピーラーの斜視図である。

【図 1 4】第二の従来のピーラーの斜視図である。

【図 1 5】第二の従来 of ピーラーにおける刃の拡大斜視図である。

【図 1 6】第三の従来 of ピーラーの斜視図である。

【図 1 7】図 1 6 の A - A 線における断面図である。

10

【発明を実施するための形態】

【0 0 3 3】

(第一の実施の形態)

【0 0 3 4】

図 1 は、本発明の第一の実施の形態に係るピーラー 1 0 0 の平面図、図 2 は図 1 の A - A 線における断面図である。

【0 0 3 5】

本実施の形態に係るピーラー 1 0 0 は、本体 1 1 0 と、本体 1 1 0 に取り付けられた 3 個の刃 1 2 1、1 2 2、1 2 3 と、からなる。

【0 0 3 6】

本体 1 1 0 は直線状の棒状体である。本体 1 1 0 は、第一領域 1 1 1 (破線 1 0 1 の右側の領域) と、第一領域 1 1 1 と連続する第二領域 1 1 2 (破線 1 0 1 の左側の領域) とを有している。

20

【0 0 3 7】

本体 1 1 0 の第一領域 1 1 1 はピーラー 1 0 0 の把手として機能する。

【0 0 3 8】

3 個の刃 1 2 1、1 2 2、1 2 3 は第二領域 1 1 2 において本体 1 1 0 に取り付けられている。

【0 0 3 9】

3 個の刃 1 3 1、1 3 2、1 3 3 の各々は、図 1 に示すように、それらの長さ方向が本体 1 1 0 の軸線と平行になるように本体 1 1 0 にそれぞれ取り付けられている。

30

【0 0 4 0】

3 個の刃 1 2 1、1 2 2、1 2 3 のうち少なくとも 1 個の刃は他の刃と種類が異なるように設定されている。例えば、刃 1 2 1 は鋸歯、刃 1 2 2、1 2 3 は平刃である。

【0 0 4 1】

さらに、3 個の刃 1 2 1、1 2 2、1 2 3 のうち少なくとも 1 個の刃は他の刃と対象物の皮を剥くときの皮の厚さが異なるように設定されている。例えば、刃 1 2 1 に隣接して形成される開口部 (例えば、図 1 6 において、刃 3 0 1 2 に隣接して形成されている開口 3 0 1 1 に対応するもの) のサイズは他の二つの刃 1 2 2、1 2 3 に隣接して形成される開口部のサイズよりも大きく (あるいは、小さく) 形成されている。このため、刃 1 2 1 を用いて対象物の皮を剥く場合には、他の二つの刃 1 2 2、1 2 3 を用いる場合と比較して、対象物の皮をより厚く剥くことができる。

40

【0 0 4 2】

以上のような構造を有する本実施の形態に係るピーラー 1 0 0 は、以下のようにして使用される。

【0 0 4 3】

ピーラー 1 0 0 の使用者は、把手としての第一領域 1 1 1 を持って、例えば、皮剥きの対象物 (例えば、大根などの根菜) の表面に刃 1 2 1 を当て、上から下に向かう方向 X にピーラー 1 0 0 を移動させることにより、対象物の皮を剥くことができる。

【0 0 4 4】

50

違う種類の刃で皮を剥く場合には、例えば、刃 1 2 1（鋸歯）の代わりに刃 1 2 2（平刃）を対象物の表面に当て、上から下への方向 X にピーラー 1 0 0 を移動させる。

【0045】

また、剥く皮の厚さを変えたい場合には、例えば、刃 1 2 1（開口部のサイズが大きい）の代わりに刃 1 2 2（開口部のサイズが小さい）を対象物の表面に当て、上から下への方向 X にピーラー 1 0 0 を移動させる。

【0046】

以上のように、本実施の形態に係るピーラー 1 0 0 によれば、3 個の刃 1 2 1、1 2 2、1 2 3 のうち所望の刃を使用することができる。このため、1 個の刃しか有しない従来のピーラー 1 0 0 0、2 0 0 0 と比較して、3 倍の耐久期間を有することができ、仮に、3 個の刃 1 2 1、1 2 2、1 2 3 のうちの何れか 1 個の刃が破損した場合であっても、残りの 2 個の刃を使用し続けることが可能である。

【0047】

また、本実施の形態に係るピーラー 1 0 0 においては、最大で 3 種類の異なる種類の刃を取り付けることができるため、皮の剥き方に応じた刃を選択することが可能である。

【0048】

さらに、本実施の形態に係るピーラー 1 0 0 においては、3 個の刃における各開口部のサイズを相互に異なるようにすることができ、対象物の皮を剥くときの皮の厚さとして最大で 3 種類の皮の厚さを選択することが可能である。

【0049】

本実施の形態に係るピーラー 1 0 0 の構造は、上記の構造に限定されるものではなく、種々の変更が可能である。

【0050】

例えば、本実施の形態に係るピーラー 1 0 0 は 3 個の刃 1 2 1、1 2 2、1 2 3 を有するものとして形成されているが、刃の数は 3 には限定されない。4 個以上の任意の数の刃を有するものとして形成することが可能である。

【0051】

本実施の形態に係るピーラー 1 0 0 における本体 1 1 0 は、把手として機能する第一領域 1 1 1 を一つ備えているが、二つの第一領域 1 1 1 を備えることも可能である。

【0052】

図 3 は、本体 1 1 0 が二つの第一領域 1 1 1 を有する場合のピーラー 1 0 0 の平面図である。

【0053】

図 3 に示すように、本体 1 1 0 は第二領域 1 1 2 の左右にそれぞれ第一領域 1 1 1 を備えている。

【0054】

このように二つの第一領域 1 1 1 を設けることにより、ピーラー 1 0 0 の使用者は両手で対象物の皮剥きを行うことが可能になる。あるいは、二人が二つの第一領域 1 1 1 の各々を持って対象物の皮を剥くことも可能になる。

【0055】

（第二の実施の形態）

図 4 は本発明の第二の実施の形態に係るピーラー 2 0 0 の平面図、図 5 は図 4 の B-B 線における断面図である。

【0056】

本実施の形態に係るピーラー 2 0 0 は、第一の実施の形態に係るピーラー 1 0 0 と比較して、本体 1 1 0 の第二領域の形状が異なっている。この点を除いて、本実施の形態に係るピーラー 2 0 0 は第一の実施の形態に係るピーラー 1 0 0 と同一の形状を有している。

【0057】

本実施の形態における本体 1 1 0 の第二領域 2 1 0 は、図 5 に示すように、本体 1 1 0（または第一領域 1 1 1）の軸線 1 0 2 から半径方向の外側に向かって等円周角の間隔で突

10

20

30

40

50

出する３個の突出部分２１１Ａ、２１１Ｂ、２１１Ｃを備えている。各突出部分２１１Ａ、２１１Ｂ、２１１Ｃは逆Ｕ字型に近い形状をなしている。

【００５８】

３個の刃１２１、１２２、１２３は、３個の突出部分２１１Ａ、２１１Ｂ、２１１Ｃの各々の頂点に取り付けられている。

【００５９】

このように、本実施の形態に係るピーラー２００によれば、第一の実施の形態に係るピーラー１００と比較して、３個の刃１２１、１２２、１２３間の距離をより長くすることができるので、例えば、刃１２１で対象物の皮を剥くときに、他の刃１２２、１２３を気にすることなく、皮を剥くことができる。

10

【００６０】

（第三の実施の形態）

図６は、本考案の第三の実施の形態に係るピーラー３００の平面図である。

【００６１】

本実施の形態に係るピーラー３００においては、本体１１０の第一領域１１１と第二領域１１２とは一体ではなく、別体のものとして形成されており、第一領域１１１と第二領域１１２とはキャップ部材３１０を介して相互に連結されている。

【００６２】

第一領域１１１及び第二領域１１２は、キャップ部材３１０に取り外し自在に嵌め込まれている。

20

【００６３】

例えば、キャップ部材３１０には両側面に凹部（図示せず）が形成されており、第一領域１１１及び第二領域１１２をその凹部に差し込むことにより、キャップ部材３１０に対して取り外し自在に取り付けられる。

【００６４】

あるいは、キャップ部材３１０の凹部の内壁に雌ネジを切り、さらに、第一領域１１１及び第二領域１１２の各々の先端に雄ネジを形成することにより、第一領域１１１及び第二領域１１２をキャップ部材３１０の凹部に螺合させることができる。

【００６５】

このように、本実施の形態に係るピーラー３００においては、把手として機能する第一領域１１１は取り外し可能であるため、把手としての第一領域１１１を他の把手に交換することが可能である。すなわち、本実施の形態に係るピーラー３００においては、把手としての第一領域１１１は直線状の棒状体をなしているが、第一領域１１１を他の形状のものに交換することも可能である。

30

【００６６】

図７は、第一領域１１１の第一の変形例を示す平面図である。

【００６７】

図７に示すように、第一領域１１１を、直線部分１１１Ａと、この直線部分１１１Ａに対して傾斜する傾斜部分１１１Ｂとから構成することも可能である。

【００６８】

図８は、第一領域１１１の第二の変形例を示す平面図である。

40

【００６９】

図８に示すように、第一領域１１１を円弧状とすることも可能である。

【００７０】

図９は、第一領域１１１の第三の変形例を示す平面図である。

【００７１】

図９に示すように、第一領域１１１をＴ字型に形成することも可能である。

【００７２】

以上のように、ピーラー３００の使用者は、自分が持ちやすい形状の把手を選択することが可能である。

50

【0073】

本実施の形態に係るピーラー300においては、第一領域111及び第二領域112は何れもキャップ部材310に対して取り外し自在であるように構成されているが、第一領域111のみをキャップ部材310に対して取り外し自在に構成し、第二領域112はキャップ部材310に対して固定しておくことも可能である。

【0074】

図10は、本実施の形態に係るピーラー300の変形例の平面図である。

【0075】

図10に示すように、キャップ部材310と同一構造のキャップ部材311を介して、第二領域112にもう一つの第一領域111Aを連結させることも可能である。

10

【0076】

図10に示したピーラー300の変形例は、図3に示したピーラー100（本体110が二つの第一領域111を有する）に対応するものである。

【0077】

（第四の実施の形態）

図11は、本発明の第四の実施の形態に係るピーラー400の斜視図であり、図12は図11のC方向から見た場合のピーラー400の側面図である。

【0078】

本実施の形態に係るピーラー400は、本体410と、本体410に取り付けられた3個の刃121、122、123と、からなる。

20

【0079】

本体410は直線状の棒状体である。本体410は、第一領域411（破線401の上側の領域）と、第一領域411と連続する第二領域412（破線401の下側の領域）とを有している。

【0080】

本体410の第一領域411はピーラー400の把手として機能する。

【0081】

第二領域412には、本体410の下端から3方向に突出する3個の突出部分421、422、423が形成されており、3個の刃121、122、123は3個の突出部分421、422、423の各々の先端に取り付けられている。

30

【0082】

3個の刃121、122、123の各々は、図11に示すように、それらの長さ方向が本体410の軸線と直交するように本体410に取り付けられている。

【0083】

ピーラー400の使用者は把手としての第一領域411を持って、本体410の軸線方向に沿ってピーラー400を上下させることにより、対象物の皮を剥くことができる。

【0084】

本実施の形態に係るピーラー400においても、図3に示したピーラー100または図10に示したピーラー300と同様に、二つの第一領域411を設けることが可能である。

【0085】

また、図6に示したピーラー300のように、第一領域411と第二領域412とをキャップ部材310を介して連結するようにすることも可能である。

40

【0086】

（付記）

以上、本発明の実施の形態を詳細に開示し記述したが、以上の記述は本発明の適用可能な局面を例示したものであって、本発明はこれに限定されるものではない。即ち、記述した局面に対する様々な修正及び／又は変形例を、この発明の範囲から逸脱することの無い範囲内で考えることが可能である。

【符号の説明】

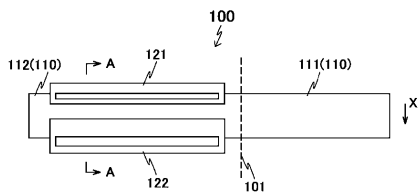
【0087】

50

- 1 0 0 本発明の第一の実施の形態に係るピーラー
- 1 1 0 本体
- 1 1 1 第一領域
- 1 1 2 第二領域
- 1 2 1、1 2 2、1 2 3 刃
- 2 0 0 本発明の第二の実施の形態に係るピーラー
- 2 1 0 第二領域
- 2 1 1 A、2 1 1 B、2 1 1 C 突出部分
- 3 0 0 本発明の第三の実施の形態に係るピーラー
- 3 1 0 キャップ部材
- 4 0 0 本発明の第四の実施の形態に係るピーラー
- 4 1 0 本体
- 4 1 1 第一領域
- 4 1 2 第二領域
- 4 2 1、4 2 2、4 2 3 突出部分

10

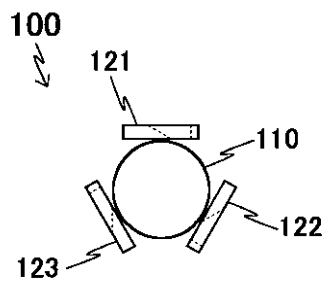
【図 1】



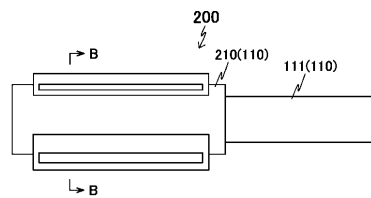
【図 3】



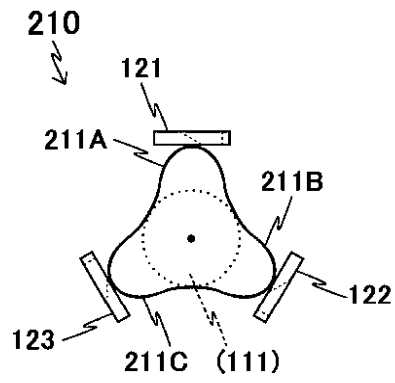
【図 2】



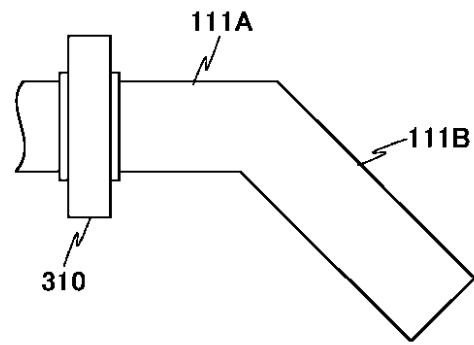
【図 4】



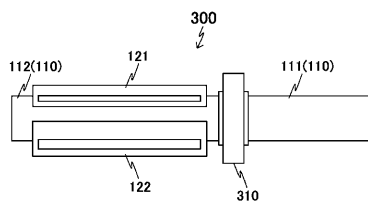
【図 5】



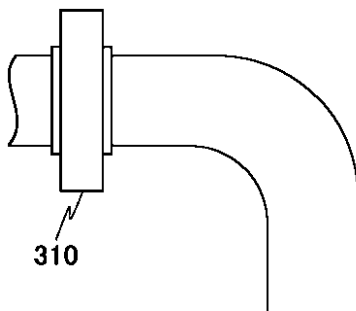
【図 7】



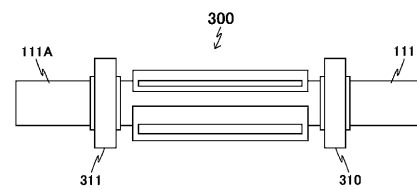
【図 6】



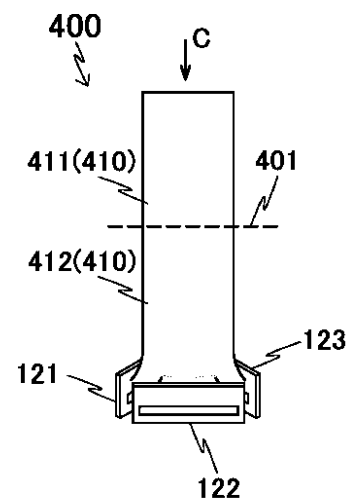
【図 8】



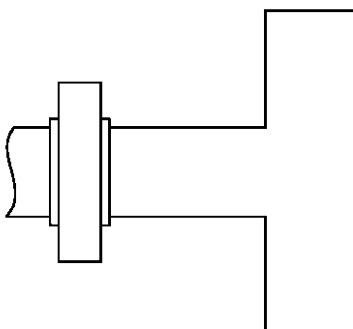
【図 10】



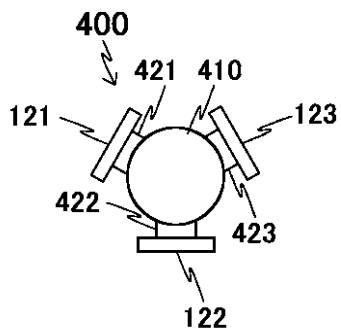
【図 11】



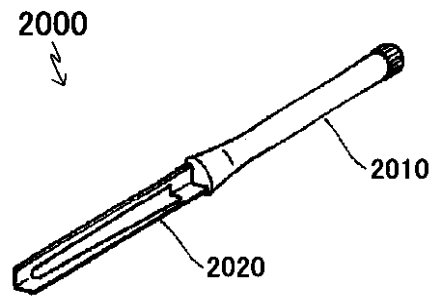
【図 9】



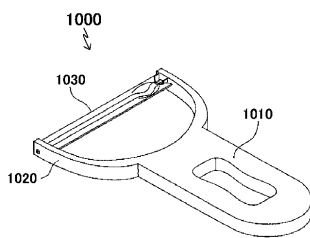
【図 1 2】



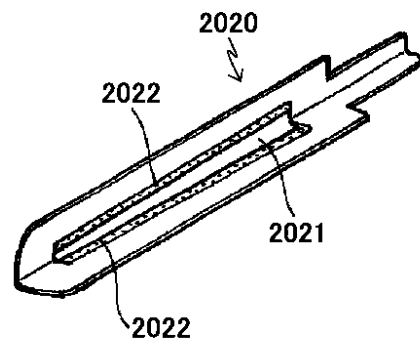
【図 1 4】



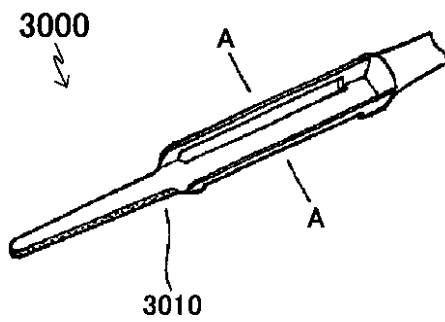
【図 1 3】



【図 1 5】



【図 1 6】



【図 1 7】

